

国分高校通信 〈第20号〉

平成27年度版

平成28年1月18日(月)

鹿児島県立 国分高等学校

霧島市国分中央2丁目8番1号

TEL 0995-46-0001

3学期始業式 (1月8日(金))

校長は式辞で「平成28年元旦は、雲一つない、晴れ晴れとした日和であった。イギリスの詩人ロバート＝ブラウニングは、The lark's on the wing The snail's on the thorn God's in His heaven All's right with the world と謳い、上田敏は「揚雲雀なのりで、蝸牛枝に這ひ、神、そらに知ろしめす。すべて世は事も無し」と訳した。平成28年が、この詩のように、佳き1年であれ、と願う、そして、「年度の集大成を行い、平成28年度4月からの、それぞれの新たなステージでの自分の在り様に思いを馳せ、一日一日を大切にしたい」と述べ、玄関上に掲げてある吉田松陰の墨書の一節を紹介し「自分の心に決めたことを空っぽのままでは済まずな。一月、二月、100日頑張れ、成功するまで頑張れ、そして心を充たせ、今を生きろ」と生徒にエールを送りました。



また、18歳選挙権に触れ「直近では、3年生の全員と7月上旬までに誕生日を迎える2年生は、例えば、原発の再稼働、昨年の安全保障関連の法改正、隣国との外交関係や沖縄の抱える問題を貴方はどう考えるのか、今年7月の参議院選などで問われる。日本の有り様を決める大切な選挙に、自分の意志を反映出来るという意義深さを考え、堂々と1票を投じられるように」と語りました。

最後に年末の学校の様子に触れ、3年生の各クラス計74名の真剣な学習振りを労い、校長室にある山口誓子の句、「学問のさびしさに堪え、炭を継ぐ」を生徒に贈り「今、厳しい峠の登り坂途中、苦しいかと思う。しかし大丈夫、慌てる事なく時には深呼吸して、心の炎をメラメラメラと燃やし続け、最後までベストを尽くして欲しい」と激励しました。

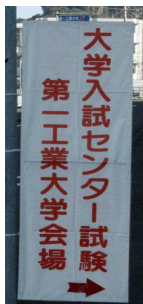
センター試験 激励会

1月15日(金)センター試験激励会を行いました。校長の激励の言葉の後、学年の正副担任から、それぞれ激励の言葉がありました。



激励会後は、学級ごとに試験会場の下見をし、次の日に備えました。

センター試験



1月16日(土)・17日(日)の2日間、第一工業大学でセンター試験が行われました。生徒たちは、試験会場への入室の時間になるまで粘り強く教科書や問題集で確認していました。

この後は18日(月)に自己採点をし、受験校を決めて個別試験に向け学習することになります。自分の夢を叶えるため、最後まで精一杯頑張ってください。